

平成25年度  
事業報告書

平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで

公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会

# 平成25年度 公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会 事業報告書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

今期は公益財団法人へ移行後初の事業年度となり、法人の目的達成のため、3つの公益事業を積極的に進めた。前年度に引き続き、新聞、テレビの取材も多くあり、それらの効果により、見学者も増加の傾向にある。これらの対応として、特別の寄付金を頂き、管理棟の内装・外装工事や案内板の設置などを行った。また、ボランティアによる清掃奉仕を頂く、団体・個人も前年度を上回り、墓地環境の維持を一定図られた。今後この輪を広げ更に多くの人々の理解を得られるよう活動を進めたい。また、各公益事業の内容の充実を図るための、財政基盤の強化を目的として、自販機売上金からの寄付金については、関係者の協力により前年度の倍額を頂くことが出来た。平成25年度の事業計画に基づき、実施した事業の概要について報告する。

## 1. 事業の実施状況

### (1) 慰霊祭の開催による戦没者の崇敬と世界の平和を祈念する思想の普及に寄与する事業 (公益目的事業 1)

#### ① 秋季慰霊祭の実施

本年度の秋季慰霊祭は、参加者の増加を図るため10月26日の土曜日午前10時半より実施した。

参詣者は遺族はじめ、地元出身国会議員、大阪府議会議員、大阪市議員、陸上自衛隊、各種団体から合計225名の参詣を頂き、心配された台風も遠ざかり、時折日も差す天候となり無事に執行できた。

今回も開式にあたり当墓地に眠る精霊に対しラップ吹奏「国の鎮め」を陸上自衛隊の協力を頂き、実施し式典に入った。

遺族の高齢化に伴い、年々遺族会からの参加が減少しているため、一般参加者への呼びかけを強化していく必要がある。

慰霊祭終了後、管理棟において今回初めて実施となる講演会を「真田山陸軍墓地の沿革について」をテーマに当墓地研究者であるNPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会副理事長の横山篤夫先生を講師に迎え開催した。聴講者は約30名であった。

さらに、慰霊祭会場では自衛隊大阪地方協力本部の協力により、写真パネルによる自衛隊の災害派遣活動の様子などを展示コーナーを設け、参詣者に紹介した。

また、前日の25日には、台風27号の接近による時折激しい雨の中、清掃作業や地元天王寺区地域女性協議会の幹部の指導のもと全墓碑墓碑約5,100基に花を御供えする花入れ作業を行って頂いた。特に今回は、墓地研修を兼ねた陸上自衛隊第36普通科連隊の30名をはじめ、各種団体150名を超えるボランティアの皆様のご協力を頂き感謝している。

今日の我々国民が平和で豊かな生活を享受出来ているのは、過去の幾多の戦争により、個人の意思と関わりなく徴兵制度のもと兵役に従事し、国を守るために戦い、尊い命を捧げられた将兵や軍役夫の犠牲の上に築かれている。この慰霊祭を通じてそのことをよく理解し、戦没者の崇敬に関する思想を普及させることで、悲惨な戦争を二度と繰り返さない平和の尊さを尊重する思想を育成し、よりよい社会の形成につながるものと考えている。

## ②万灯会の実施

終戦記念日の8月15日夕刻より、各種団体約120名参加のもと墓碑一基ごとにローソクを献灯し、当墓地に眠る精霊と太平洋戦争での戦没犠牲者に対し慰霊追悼を行った。また、参加団体 NPO 法人大楽小楽のリーダーにより、参加者による唱歌合唱は、ローソクの灯と相まって、鎮魂の雰囲気盛り上げた。

## ③諸団体が実施する慰霊行事、個人参拝者の支援

納骨堂で実施される本門佛立宗清風寺、念法真教、天理教はじめ各種宗教団体の月例慰霊法要の湯茶等の接待、自衛隊墓地研修時における献花対応、個人参拝者からの要請に基づく案内等の対応を行った。

## (2) 墓地見学者の案内と学術調査活動により得られた調査・研究成果の啓発と普及を図る事業（公益目的事業 2）

### ①真田山旧陸軍墓地の学術的調査活動の推進

日本で最初に陸軍の中枢機関が次々と大阪に創設されたことに伴い設置された、当陸軍墓地の調査・研究は、我国の軍隊と関わる近現代史の学術の振興に寄与するものとして、当墓地の調査を昨年度に引き続き、大学教授、歴史研究家等で構成する「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」に委託した。

### ②墓地見学者に対する案内

歴史的文化財としての貴重な存在である真田山旧陸軍墓地を後世へ引き継ぐための教育啓発事業は、法人の事業目的として大切な事業であることから、見学申込の諸団体はじめ、個人見学者についても、積極的に受入れ案内に努めた。

### ③墓地資料展示室の整備と活用

保有している墓地調査資料やNPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会より新たに提供を受けた資料の展示や、一部展示説明文の更新を行うと共に、寄贈を受けた木製キャビネットを配置するなど、墓地資料展示室の整備を進めた。また、墓地案内の際には、極力資料展示室にも入って頂き、墓地情報の啓発・普及に努めた。

### ④パンフレット等の活用

墓地案内の際に活用する、墓地の概要、時代別墓碑例の紹介、当法人の目的事業内容等を掲載したA4サイズ4頁のパンフレットを新たに制作・印刷し、墓地及び当法人の事業に対する周知・理解に努めた。

### ⑤ホームページの活用

今期は閲覧者の増加を目指し、ホームページをリニューアルし、慰霊祭、万灯会の行事や墓地案内会の案内、当法人の事業に関する広報と共に新しい情報の掲載に努めた。ホームページの25年4月～26年3月の1年間のアクセス件数は、4,687件で前年度のアクセス件数の2倍以上増加した。

### ⑥マスメディアへの対応

昨年度に引き続き、新聞社・テレビ局各社の取材も多かった。例年終戦記念日前の取材が多い傾向にあったが、昨年3月に3年間に渡る納骨堂の調査が終了したこともあり、特に8月、11月に集中した。新聞テレビによる報道は、当墓地の情報を発信できるよい機会と考え、取材申し込みに対しては積極的に協力した。

### (3) 墓地・墓碑、その他施設の維持及び修復に関する事業(公益目的事業 3)

#### ①劣化の進んだ墓碑の修復・保存活動

和泉砂岩製の墓碑の大半が経年劣化により、剥離の進行や倒壊の危機に曝されており、墓碑の劣化進行防止は大きな課題となっており、今期も前年度に引き続き、具体的に修復・保存方法の技術的検討を進めるべく、京都造形芸術大学歴史遺産学科と委託契約を締結し、劣化進行を防ぐための具体的な保存方法の検討を進めた。

当墓地には、和泉砂岩製の墓石は 3,526 基あり、その多くが経年により多くが劣化し、倒壊の危機に曝されている。昨年の劣化状態調査で A が状態が良いものとし、D が折損などの修復が難しいものとしたところ、A が 526 基、B が 2093 基、C が 859 基、D が 48 基となっていた。今期はこの結果を元に、現場検証実験を行った。強化処理の作業工程は、①事前調査と写真撮影②洗浄③乾燥④薬剤注入⑤乾燥⑥処理後の観察の 6 工程となる。薬剤は、ワッカーOH(ワッカーケミー社)を使用し、合計 20 基の墓石に施工をした。その結果、薬剤については 1 基につき約 1000 g から 1200 g が必要であった。これらの結果から A タイプの墓碑については、当初の目的であった、市民ボランティアによる施工方法がほぼ確立が出来たと判断し、平成 26 年度以降はこれらの施工方法に基づき、順次実施施工を行うと共に、京都造形芸術大学に委託し、C タイプについての修復・保存方法についての技術的確立を目指す。

#### ②墓地の清掃、除草の推進

大阪市が実施される、植栽の剪定、草刈りの他、各種団体のボランティアの協力を頂き、墓地の清掃、除草等環境維持のための活動を進めた。特に自衛官の研修を兼ねた墓地清掃奉仕や休日小グループによる自衛官の清掃奉仕を頂くことが増加し、有難く思っている。

#### ③納骨堂の清掃

納骨堂の清掃については、各種宗教団体による祭祀の際に正面祭壇室を清掃頂いているが、堂内については、ほとんど手がつけられていなかったため、当法人事務局により、以前より収納されていた古い祭祀用具、及び机・椅子、墓地清掃用具等で使用しない物品について、整理・廃棄処理を行った。

### (4) 法人の運営・管理に関する活動状況

#### ①公益財団法人としての運営・管理について

今期は、公益財団法人移行後初年度となるため、関係法令の遵守に努めると共に、大阪府法務課による「移行後の定期提出書類の作成等に関する説明会」(1 月 28 日)、「移行後の法人を対象とした個別相談会」(3 月 25 日)に申し込み、定期提出書類の作成に関する知識習得に努めた。

#### ②理事会・評議員会の開催について

理事会・評議員会については、次のとおり開催した。

- ・理事会 平成 25 年 4 月 10 日、6 月 3 日、9 月 17 日、平成 26 年 3 月 4 日
- ・評議員会 平成 25 年 4 月 15 日、6 月 18 日、平成 26 年 3 月 12 日

#### ③財政基盤の強化について

財政基盤の安定化を目的として、昨年度に引き続き維持会員の入会促進活動を行い、3 月末日現在で維持会員数は、法人会員数 73 人、個人会員数 23 人の合計 96 人、維持会費口数で 188 口の申込があり、昨年度末に比べ維持会員数で 14 人、口数で 33 口

増加した。今後もより強力に事業を進めるために、維持会員数の増加並びに寄付金の増額施策の検討を進めたい。

また、昨年度からタカラベルモント(株)グループ各事業所の協力を得て開始した、全国の主な施設に設置の自動販売機(飲料用)の売上の一部から寄付金については、協力事業所の増加により、昨年度より約 302 千円増加し、約 444 千円となった。

#### ④墓地管理の強化について

昨年 8 月管理人が、高齢により施設に入居したことを機会に、管理棟の内装・外装の改修工事を行った。これにより、管理等での慰霊祭当日の講演会の実施や一度に沢山の見学者の受け入れが可能となり、多目的に活用が図れるようになった。

また、幸い、今期は墓碑の損壊等墓地内での不法行為は無かったが、自殺者 1 名があり当法人役員が天王寺警察署の事情聴取に対応した。

但し、管理人の常駐が不可能となったので、突然の見学希望者に対しては、地元役員の巡回を緻密にし対応しているが、次年度に向けて従たる事務所での事務作業時間を減らし、主たる事務所である管理棟での事務作業時間を増やす方向で検討し、26 年度予算に盛り込んだ。

## 2. 財務状況

今期は、特別に寄付金を頂き、管理棟の内・外装改修工事と長年の課題であった墓地案内板を墓地入口付近に設置したことにより、経常収入・経常費用とも当初予算より大きく増加した。いずれも補正予算を編成し処理した。その結果、当期経常増減額は昨年度より 215,777 円増加し、360,909 円となり、一般正味財産期末残高は、前年度より 360,909 円増加の 1,405,682 円（基本財産への充当額 410,000 円を含む）を計上した。また、正味財産は前年度末に比べ、360,984 円増加し、4,305,757 円となった。

## 3. 年度末の役員・評議員・事務局員の状況

平成 26 年 3 月 31 日現在の役員・評議員・事務局員の数は次の通りである。

- ・理事数 8 名      ・監事数 2 名
- ・評議員数 10 名
- ・事務局員数 2 名